

日記
被物

六種物體月見之下

波東虎色面もあんきの事

櫻金中寺竹達志の事

草津伊豆佐原の事

伊豆佐原の事

上野ゆゑの久慈屋すらうゆ

陸奥吉田山の事

太仏殿風流多くすらうゆ

西行平穏百萬の事

芭翁
卷角

以禮物禮。月錄之下。

波東流。而圓。也。有んまひの事
強。倉中。寺社。建立。の事

草津。乃湯。よ。こどく。も。こ。す
伊豆。檜原。夷。築。乃。事
那。次。坐。ふ。そ。草。薺。わ。禮。乃。す
上。列。山。豪。の。人。強。性。ナ。シ。ク
深。沢。大。仙。殿。風。よ。そ。ん。す。る。事
陸。奥。ち。ゆ。ん。き。い。の。吏
面。の。乃。牛。鷹。一。見。乃。事

芭翁
卷角

芭翁
卷角



火禮物禮下

○ 板東流。猶國也。有んまへ乃事
かくの者。國東もくとくにそく。國百屋。そ
いたゞく。あいりひゆ。じこどり。ゆめどり
の。座ありよと。よ一。座。下座。とあくそひ。親
お母ち。ひる。母ぢ乃。引うけ。とりひ。座。あく。お
う。うりき。極又。猶國。巡禮せ。人を。今生
後生。而。到成祐。一。が。で。食。人。あり。と。老。若
とい。つら。し。ト。縁。と。え。く。が。ど。座。上。よ。益。な。き
も。今。み。よ。の。圓。巡。礼。も。三十。ね。の。れ。と。首。

よりは國を守りしと御りたれを。あらまえ
まくづみの東より百姓。やまとす力と
て。善めちよトのわこそひふ人れもあり。
こちよ。生るもとつた。尊の尊。も早。大き
みうちりたり。百姓。人衆。中。の。り。也。そよ。
益。す。されど。參。の。老人。す。て。あ。ある
云。ゆ。巡。礼。の。も。す。り。く。り。人。王。六。十
代。祀。の。法。皇。の。た。す。性。主。上。人。熊。野
社。の。行。づ。げ。も。て。巡。礼。を。立。寛。和。す。
丙戌二月十七日。總。寺。乃。が。も。う。や。始。て。六

月一日。義濃國。首。ぐ。と。え。す。て。お。き。め。高
木。星。二。也。あ。隱。の。ひ。ら。う。ひ。も。難。を。下。之。極。
農。人。と。つ。や。じ。ひ。く。う。ど。百。姓。の。二。字。も。
毛。乃。と。な。と。傳。り。民。と。べ。ら。ざ。の。傳。よ
き。う。ひ。す。う。り。草。の。風。よ。す。び。く。が
ご。と。う。家。の。百姓。と。あ。ひ。い。す。ひ。て。極。の
矣。名。と。民。の。草。矣。た。ど。あ。く。う。草。矣。
乃。力。度。云。ひ。う。べ。き。を。の。こと。り。の。く。へ
た。民。乃。力。た。と。求。め。や。ひ。し。う。の。我。神。よ。思。ひ
も。も。と。や。承。す。ん。民。乃。無。事。の。も。而。の

日と仁。注天皇。猶。トタ。礼記。○稽田と
夫。夫。耕と親の田也。昔。稽田平畠。夫。耕と
あつて。見用ひ。郊廟。は。傍。じて。ござ。いせの
も。うづく。天下の農と。し。く。め。レ。く。ふ。漢
古。夫。夫。年。の。初。は。耕。と。し。て。う。な。田。と。
農。あり。耕と親ひ。と。云。民。の。耕。作。
とも。く。め。し。め。ん。た。め。也。夫。ア。ナ。ジ。や。さ
き。ア。田。と。と。天。夫。ア。前。祖。と。祭。田。町。
修。農。よ。す。日本。あ。く。え。び。夫。ア。稽。田
の。法。と。ほ。と。め。ね。す。ゆ。わ。り。帝。と。百。姓。

天地よりひやり。車のあ騒のごとく。一
旅の如く。店代もさよりしがう。また上に
いへゆつめの方。駆人えりどり。馬主せのし。農人う农人。あり。
陽子新春象
御車船
副見登寶傳
ありのね。ぞきそよとひく。太鼓おの。三三音。高たか。四
卷鳳動天まきふうどうてん。一つの象あり。ぬるぬる。家底けだい。侍まつり
とどり

のへぬ。をよとづく。士農工商。四
つの家あり。士农。商。工。侍。と
か。被持。す。有。甚者。ひきの。工商の家
よもと。りで。りや。め。り。板。又。百姓の。筋。
よどき。位。名。ある。の。家。よ。うち。うけ。とも。
侍。まの。左。身。とく。右。身。う。と。が。な。

ひゆくごときしも。首雖とて。ひでうる
しりざき。とがくぐる。ひまわ。善めの葉
よひをと。今せの貧福苦無あり。豈
よ。もと。今あらじと。わば。あらじと。
あらじと後。今星とあらじと。國のあらじ。
との。に。あらじと。後より。今星を伏とつり。
あらじと。もと。一。夜もくづづる。ふ
こと。を。よ。天を。と。と。もんじ。わらす民とあ
り。ひ。是も。仁政の道ありとつり。

○ 節倉也。寺社建立の事

又。今。老。篤。倉。と。あ。ん。ま。の。じ。る。よ。量
私。社。圖。所。り。あ。。昔。古。所。よ。ね。軍。寔。代
ね。度。さ。も。り。あ。と。も。ち。る。あ。も。り。は
寺。社。建。立。の。教。主。と。や。ぐ。と。う。ひ。老。翁
よ。わ。ひ。て。先。君。え。無。よ。ハ。惣。の。教。主。と。あ
タ。も。じ。翁。翁。と。く。あ。と。無。ハ。後。の。冷。泉。院。乃
法。宇。併。あ。る。你。相。也。取。義。公。奥。列。乃。ふ
た。り。ひ。も。た。り。追。討。の。た。め。法。王。の。時。勅
定。と。う。う。康。平。六。年。あ。海。へ。石。活。水。と
く。も。ん。ま。や。う。り。す。も。と。君。え。ハ。惣。と。号。と

と。又永保元年。陞奥守。同朝臣義家。向
領院乃住。奥乃將軍三高。武衡四高
家。退治。退治。而。活ト向の町。はまの。修造
をかひりの。其後。告。悔。依。月。御。後。御。御。
治。渠。八年。ばえと。再興。祀。據。の。修。を。不
守。よつり。相。又。教。相。芻。爲。図。え。の。上
の。地。よ。と。づく。じ。め。と。山。八。場。え。と。う。ん。が
や。う。一。は。ん。ため。室。殿。の。急。く。せ。う
き。建。久。三。年。辛。亥。四。月。廿。六。日。上。棟。云。

じ。あ。社。ね。百年。の。星。霜。捐。よ。お。累。く。わ。り。
小。條。氏。總。え。至。鴻。恩。山。八。場。え。お。え。大。檀。理
ハ。國。東。氏。士。乃。信。守。たり。再。興。も。傳。と。
天文。二。年。癸。巳。二。月。十二。日。ト。也。術。立。ト。

す。り。同。九。年。庚。子。十。月。廿。二。日。せん。ぐ。

や。社。昔。の。う。う。う。よ。ね。た。う。ど。廻。廊。よ。と

ま。で。ある。廟。た。く。建。立。せ。れ。る。と。其。後
新。田。贈。大。納。豪。家。康。公。本。私。業。主。事。業。
廣。忠。卿。長。年。慶。四年。或。二。年。慶。四年。
大。年。從。一。位。左。侯。大。年。從。一。位。大。將。軍。征。夷。大。將。軍。征。夷。
元。和。二。年。四。月。十七。日。薨。贈。位。大。政。臣。東。豐。大。擔。境。下。鹽。手。稻。草。多。選。

卷之六
三國傳事
慶長十年
九月廿日
薨年辛酉
古稀歲

寺主も角。南乃法主。文治元年十月廿
日。信玄の後わり。勝長専院と号し。是
八西國もて源平敵ひまごとふるよ元文
のためよ。義弟よ立らむたり。承徳寺を
文治五年。れれぬ。義強。泰助と殊界。
通倉。ゆきあめ跡にて後。建立乃寺也。ま
御。平泉よをつて。建立。寺。も。泰
畫。高。も。と。模。せ。あ。軒。内。殿
終。め。比。教。あ。佛。よ。是。あ。主。九。あ。乃。も。や。う
えん。と。東。岡。乃。二。階。の。禁。宇。よう。い。と。あ。と

云。寺。岡。よ。多。室。修。立。け。塔。く。や。う。守。仰。の
東。大。寺。の。別。庵。權。僧。正。勝。舅。也。義。強。泰。助。
の。敵。より。免。あ。じ。ど。そ。こ。う。乃。高。き。う
より。て。誅。せ。く。く。の。加。は。も。も。が。ん。う。も。や。う
と。あ。だ。り。ん。ぐ。な。め。ば。ち。も。と。も。く。れ。う。り。ま。の。代
よ。望。て。ば。寺。不。そ。ん。も。る。所。よ。室。治。二。年。承
経。寺。修。造。の。中。也。そ。以。通。倉。の。も。う。け。ん。ハ
左。親。柔。財。教。ゆ。の。年。の。義。強。泰。助。が。一。族。が。う
じ。う。乃。支。干。よ。わ。く。る。前。涉。つ。志。も。あ。と
て。無。身。せ。く。起。乃。と。云。業。仰。主。法。祀。堂。

も。あわち。是れ。氣軒。創建。大慈寺。而。庵庵堂。重ね。新。と
庵庵堂。新。を。鐘樓。三重。の。塔。もう。見え。と。歟。
画。取。ひ。立。て。之。の。神。家。寺。の。裏。附。乃。
國基。永。二年。七月。五日。株。上。の。假。あり。か
る。ま。仰。の。儀。と。妻。墨。と。壽。弟。奇。の。奉。時。
達。長。寺。ハ。達。長。又。多。十。月。セ。又。日。供。事。又。
六。方。地。庵。井。と。ふ。て。中。も。と。と。又。同。儀。と。妻。
延。禪。仰。せ。ば。作。善。の。旨。詔。ハ。上。ハ。皇。帝。万。歳。
將。軍。也。ど。う。ひ。重。院。千。秋。天下。太平。と。承。

頼朝。頼家。實朝。是。を。廢。爲。御。主。

ア。ド。ハ。三。代。の。上。乃。ハ。位。家。并。よ。ハ。一。門。の。也。去。
教。寺。乃。ハ。没。後。と。と。ひ。不。う。ん。ぐ。ため。財。教。
建立。天。下。禪。林。と。察。く。り。だ。ら。り。あ。耶。ち。え。
時。損。大。吳。山。淨。光。寺。名。淨。光。坊。と。つ。よ。計。ド。也。
徳。國。と。六。年。効。事。ア。ハ。後。二。年。三。月。廿。七。日。
棟。上。の。裏。ア。リ。中。も。ハ。何。殊。色。の。金。剛。佛。
ト。妻。至。ア。ト。而。ト。達。武。二。年。八。月。三。日。の大。
風。ア。童。の。ア。ン。ド。大。仏。計。並。ア。リ。極。美。寺。
八。重。時。泉。安。山。淨。光。の。寺。ハ。長。時。有。竟。寺。ア。
弘。安。二。年。財。宗。立。る。用。山。佛。光。禪。仰。也。松。

思^トハ時宗の妻女か寝^ト。開基比丘尼^ト也。日
輪寺^トハ高時。慈光院^ト守時。慈光山長谷寺。
在柄の^ト。わ^トれぬ云^ト。豈アフリ。乃^ト是^ト波^ト。頼
羽^トと^ト。白旗大明神^ト。といひ有^ト。都國^ト
家^ト。津^ト妙^ト寺^ト。貞氏^ト。長壽^ト。伏^ト。瑞泉
寺^ト。基^ト。永^ト安^ト寺^ト。伏^ト。滿^ト。よ^トん^ト。伏^ト。瑞泉
五^ト山^ト。巨^ト福建^ト。長壽^ト。瑞^ト。廉^ト。足利將軍^ト
岩^ト。壽^ト祐^ト寺^ト。金峯^ト。津^ト智^ト寺^ト。稻^ト荷^ト。淨^ト妙^ト寺^ト
足^ト。あり。尼^ト寺^ト。又^ト。山^ト号^ト。慈愛^ト寺^ト。懷念
寺^ト。標林^ト。惠林寺^ト。通玄寺^ト。也。寺^ト弘^ト。

○ ど徳^トり^ト也^ト。が^ト。慈倉^ト。御^ト也^ト。災^ト
も^ト。悉^ト灰^ト。燼^ト。也^ト。今^ト。も^ト後^ト。果^ト。う^ト
と^トうち。も^ト下^ト。也^ト。也^ト。也^ト。也^ト。也^ト。也^ト。也^ト
を^ト。方^ト。也^ト。よ。大^ト毗^ト。也^ト。度^ト。也^ト。也^ト。也^ト。也^ト。也^ト
家^ト。あり。人^ト倫^ト。也^ト。同^ト居^ト。也^ト。さび^ト。也^ト。是^ト波^ト
也^ト。持^ト。よ^トひ^ト。て。ば^ト寺^ト。の^ト中^トま^トと^ト是^ト。あ^ト
を^ト。老^ト。傍^ト。食^ト。く。也^ト。寺^ト。也^ト。貞^ト時^ト建^ト立^ト。も^ト上^ト
勅^ト教^ト寺^ト也^ト。が^トよ^ト家^ト。慶^ト上^ト人^ト。國^ト東^ト下^ト向^トする
あ^ト。じ^ト是^ト。あ^ト。す^トん。わ^ト年^ト。と^ト傳^ト
教^ト覺^ト園^ト寺^ト。湯^ト多^ト房^ト。み^トざ^ト。散^ト。也

と。キノゾコトドリ乃。葦乃梅と。清有筆
奈良頌美 復興事務所三
皇子二十年 嘉慶五年七月
薨年五十五 仁四年平貞時御西吳國退治乃ため。び
熱樺相模守軍 明親王乃は時。承
時宗時相もす ぐりんと達立。ゆふやむるハ萬葉乃三
又モ後大醫王。清犧國殿。とり。家ヒ。勅
第。と。そ。あ。し。き。御文も。報和寺と号

。繪旨方を子トアラ
。桐摸國竟園寺。高勒社寺。宜今波佛

行持者也天氣如其の机事。其件
元弘三年十二月廿一日右申

元弘三年十二月廿一日右中弁

叔又源也。氏云。南寺承真也。而信仰淺。
クニす。万代乃龜鑑也。弘殿乃。虹梁の銘。二
行とも。氏云。は自筆。も。信。よつてく

今上皇帝。聖壽無強。天下元黎淳風有道。
癸酉降伏昌黎。祈之法場。伽藍常住。特不

窮。法輪人。歸敬三寶國。歌。太平。
散白。征夷大將軍。正二位。源朝臣。尊氏。

謹書

○**征夷將軍冠蓋一天。武威統於萬邦。榮運及
方億載。梵宇固基。至慈尊之出世。法燈無盡。照編界。立車旛。允僧和合諸天擁護。**
敬白文和元年十二月八日住持沙門思淳謹諸
**右の詔ハ長さ四尋のうぢり。二ちやうよ
一ぐぢり。二ぐぢり。あそぢり。自筆。今よ
とく是あり。紙と油墨書。寫自筆。今よ
當寺佛殿虹梁銘位。暑事故更取染筆也
可爲萬代龜鑒之狀。如件**

文和元年十二月八日 ち氏
覺園寺長老
右と重老承見ト申り。別書写し。是より記
ト仰う者也。遂ニ相列名譽ノ最寺。海内の
法要ナリ

○草津の湯はどこまでも
足りぬ。今古老上より草津湯治としてあり
矣乃比湯の山は付たり。がんまことじるるより
よきもの。湯口十尺の廣く有て。長二町
程。うそとひろくうがき。向破立く。大河のこ

ト。岩湯イシヤ大湯オシナ十四又シテあへべ。高タカと
まくして浴ヨリり下アシよ。大オシナタカ湯ヨウ承スル
て。老衰ラクシ男女ウモトガ。身絲ミソシうんシも。八千瓦ハチセンワ。一万瓦
也タマ。下アシ。浴ヨリ來シと墨モクの御ミコト。御ミコト御ミコト
き。御ミコト。建久ケンク四年ヨリ。比ヒ利リ。御ミコト御ミコト
下アシ野ノ。御ミコト御ミコト。信濃ニシロ原善ハラシ。乃ハ鴻ホウ倉カウ
路ル。時ハ山ハシ入アガ。御ミコト御ミコト中シ。が湯ヨウと
凡付ハナフ。墨モクの者ハタハタ。と見るミル。而アリ。男一人ヒト腰ウエよう
まとシテ。ある。浴ヨリ者ハタハタ。かごとカゴト。苟ハタハタ。湯ヨウ
口カクを浴ヨリ。もとく。温泉ヨシナ。すゞめ。経ヨリ。まく

と。湯座ヨウザの湯ヨウと名メイ付スル。今イマよ。行ハシり。枝ハシ
さシ。源ヨシ乃ナと云スル。墨モクの病ヨウ。浴ヨリ。下アシ
見ミ。下アシ。かよ。今イマよ。といそく。甚シ。猿ヤマ湯ヨウ本ハタハタ
も。いざと前アヘ。日ヒ常ヒサシ。く。足アシ。月ツキ湯ヨウふ
熱ヒと。う。う。び。ひ。ま。よ。よ。し。床シマ。肩カミ
や。く。乃ナ。效ヒ。鑑ミズ。も。す。が。三ミツ。爻ヨウ。あり。效ヒ。
か。湯ヨウ。多タダ。と。之シテ。是シテ。效ヒ。出ハシム。も。ひ
日本ニホン。夢ミム。乃ナ。因ヨリ。も。よ。浴ヨリ。多く。万病ミサンギ。愈スル
む。と。云スル。す。と。考ハシム。も。も。ち。て。徳圓ドクエン

よ名湯も御前。余より。もろ温泉ゆる。
津行基。國りしれ。三輪神。すまうまと。平歎
集。よ路。一き。古幸。をと。三輪。乃神。たる。ば。
ち。よ。ら。る。も。湯。る。と。練。せり。
支湯。停夏。立葉。よ。の。園。山。南。よ。
み湯。乃。也。紀。神。乃。も。す。あ。も。り。と
も。あり。停。高。湯。篠。乃。よ。の。湯。乃。ゆ。け
し。え。い。の。れ。も。じ。ど。う。ご。へ。ど。う。す。じ。ど。君
が。も。ん。大。銅。油。湯。信。徳。も。れ。よ。ま。る
ひ。る。な。ざ。ま。く。い。れ。ひ。乃。ア。ル。も。く。裏。ち

ぢり。ぢり。セ久里湯。同列。ゆ。こ。も。や。ぬ
遠。よ。洞。と。ゆ。く。と。底。や。セ久里。乃。山。湯。ふ
あ。も。ん。芦。薪。湯。相。摸。あ。く。り。の。五。肥。の
河。内。よ。あ。る。湯。乃。き。よ。た。す。う。じ。ど。づ。か。あ
な。く。よ。陸。奥。さ。と。と。の。古。湯。ト。と。く。え。よ
き。げ。う。じ。君。と。み。ち。び。く。の。さ。と。と。の。清。湯
と。づ。を。そ。て。即。名。古。湯。同。列。あ。く。つ。あ
雲。乃。通。海。乃。く。と。即。ど。り。の。ミ。ゆ。け。じ。よ。と
や。う。え。あ。ね。お。次。湯。下。野。ふ。と。と。乃。郡。神
私。ひ。の。み。そ。え。う。く。を。と。も。ら。う。との

湯乃たきゆと毛とつり。龜摩の湯後濃
也。龜摩タカミ乃湯大祿タケルせり。よりらく乃浦
乃立湯と禮タマツの紀侯。又伊勢
リ。而熊野湯クマノ乃國。そく乃浦
毛とよりあり。うすこの立湯、寡タマミ也。よく
あく湯、紀侯あるし。浦く乃湯古今の
御ミタマよ佑り。九列キウチの御をくらぐへもと云。
く乃タマツ諸國タマツよ名湯あり。け取の湯
也。取タマツの水タマツあり。のぞま下りこのもの
奇人草タマツ作タマツとすとすとすと首毛タマツえど。

不寫也。とくじ黒乃翁言カミコロく。奇乃作タマツとモ
翁カミコロと。雖タマツよ。是より南房國タマツよ生湯タマツ
利。是と翁カミコロはと名付。ば湯タマツよ入者。祛病愈
毛タマツと云タマツ。而佛教タマツとたよりて成
仏せふと云タマツ。而。說行タマツひぬとや。う
かく三國タマツ乃名湯と禮。然毛タマツ湯タマツと乃し
かく。而翁食タマツとつとく。皆人湯タマツりわざ
て毛タマツ。而翁食タマツとつとく。皆人湯タマツりわざ
者と交タマツ。大益タマツをも。湯潤裏タマツと名
付タマツ。さうして。さく毛タマツ。毛タマツと毛タマツと。毛タマツ湯。

もう。すくまく、酒の味ひせり。あよ。よア
ひよ。おそのじ。湯の性收り。ゆ。波肉
をと。かし。身力こづく。汗とぬく。流す
あく。味あ。湯よ十日程。まを。波肉
うき。立長安。じと。湯のいさよ。も
ねりえ。すと云ひ。草浦の黒人
のむね。走るの人ようり。手作法とづき。
老の男女。力よあら。給一升もす。が。
医者。免た。菜と云事。とあら。どざす
なり。花色。湯もて。余よも。ば。記しこ云ば

假よと。かじどと。因よ。も。黒人。男。老
女。湯よ入と。く。小。魚。乃。浴。一。え。方。星
は。不。あ。う。そ。浴。底。か。と。い。も。も。綾。一。兔
う。と。り。ふ。う。き。人。る。乃。一大事。と。云。食。よ
色。う。る。や。す。よ。う。か。ひ。親。れ。い。な。食。石。室
の。財。金。取。施。ま。ど。も。あ。つ。ま。わ。う。み。み
ま。で。食。星。ま。と。菜。魚。と。用。ふ。く。と。と。あ
く。た。び。ん。食。す。か。う。三。ア。あ。ぐ。る。徳。病。よ
く。と。き。常。り。人。も。見。と。も。す。ま。よ。び。飲
く。よ。生。と。信。る。商。敵。心。と。の。ま。ど。中。に。も

なる人多と。にどめい。虎よりりてある。至
とも二季もるとやうんづぞくしめ毛列の
鳥すまきだ。日本よりく子をすまこととひ。さ
きたすみだよ。鷹帰は。虎のたびとよえれ
ぞ。ば國と援よう。こもまきたり。梯よあうと。
すくろう山と云前句よ。天津鷹が。ア
猿狛や。アラシルんと家仲付うち。鷹援よ
月日とまわり。ち常よ歟て。春あうじ古事
論の前よ。虎うつ。どこよの花のいふるを
や。舟のうづくを。わのうづまの鳥と称せり。

あく前句。鷹花のねと見接と。春と
こすくぬり。草津の今。湯の山の月と
見接く。秋古つ。ゆゆゆ。四季の月日と
こすり。ほんも志色もあ。だく姿のうづ
里たる。かく。最もこのもの軍と毛二季文
とやうんづぞくよ。ここめあう。雲や解よ。
二季人の。おとよの鳥と。うゆるん草津
の湯よ。梅くらぎまくらり
○伊豆枕現。景�の事
乃今あた。伊豆の山と通う。一。乃

次ちくく檀観の方社（アシカニマツノミコト）をうり。立身者御三事
小古（コトコト）つる立交井（タケイ）が勝（ハサウエ）ります。あくち
乃山極苔（タケシマカクシ）星雲（セイウン）の霧是（モカシ）うり。山た
うくよ來れ（カムリテル）ごの様（ヨリカニ）とさんせ。海夜（カニイ）よ絶
海行（カヒキル）ト化成（カジメル）生（ナリ）ねとあ。ソセラ。數
松（マツ）そぞざくと。若（カワウ）。福不枝（ハナゼス）とほ。綠
あんく（アシカニ）だら湯社（タラヨウジ）。新（ハカル）と氣泡（エアバブル）走湯山
羽曉（アシカニ）立亭（タケニン）檀觀方（タケガニマツノミコト）と竹持（タケハサギ）
室（ムロ）あゆ緋（ヒカツ）。光像（カクジヤウ）。柳（ヤマツ）。走湯山
檀觀方（タケガニマツノミコト）の拵身（アシカニマツノミコト）と。因

もと。金六代者安天皇（アシカニマツノミコト）の御宇。燭ねの御
みこすよりと。停亘（タケニン）山（ヤマ）のひのひをり。星流
生利益（ヨウゲイ）乃近方（アシカニマツノミコト）修（シヨウ）。生せ。一り。もと
あくよ湯（タラヨウ）と。もと。あ。り。と。と。た。金毛と
あくよ。但（シテ）。御承（マツル）。後行者（アシカニマツノミコト）。湯前にはまくさん
行者（アシカニマツノミコト）。是と。かく。走湯山
湯文（タラモン）云。觀世音示現走湯如大海。沐浴諸
衆生離苦生極樂（ヨウガク）とあり。寔也。苦しげ湯と
是と。かく。走湯山

湯と信身せざりん。ひ者げ文と。殊勝も。と
くらう多ひ。ひを又。善始良湯。大慈心水。沐
後罪減。六根清淨と云。玉集の伊豆の
國山のあよ出る陽のも。也。神のあよ。故
よりと承せり。とりて江戸の軍。也。南山と
佐治。もど。もよ。と。溪東。も。中。活。活。も。と
當寺。御。朱。不。と。と。而。あ。す。と。起
園東真言宗古義。諸家中。法度事
一年。兩度。法談。の。日限。堅不可。有。增減事
一千季。稽古。雖爲二十季。不可。懈怠事

一一一一本寺修山。可。遂。三。ケ。年。事
於談儀取之諸法度者。可。隨。能化下。變
一本寺修山之間。吾宗本書。普可。受。學。夏
一縱。雖。有。教。相。之所。學。無。更。相。之。傳。復。者。
不可。許。能化事

膏。爲。佛。法。真。隆。宗。可。專。如。法。之。行。義。事
於古跡之一寺丁山者。可。合。住。學。近。之
能化事

右可。相。守。け。旨。者。也。伊豆國般若院
とくの。とく。他。あ。れ。う。り。叔。又。山。東

明寺の縁起。かくえどもつた。古き文り。
停まむ。宿院乃也。まと記せり。全世一代。敷達
天皇御宇。美因より承知。とあこづくん
とと。去すよぐ。日本小國とへ去。智萬
乃國文民とすつてせり。智万やどをうそ
ろさんとく。鳥羽羽支と事多く。後づる。
是と日がりよじゆ。そば。船史祖
おみとさく。船史深き。接化あり。う
とりくとあら。対とあら。対とあ
ら。門にいはゆる。とよじき。内裏へ

ノリモモ羽下。まもすら。おまめの良木を。辰王
とえや。今。伊豆守観是也。故よほゆ
乃象ハ。近の字と用ひ。辰乃日ありと。
御社よりかえり。無事。今。南弘乃象ハ。毎
二月十五日。宣る辰の日。植観の縁日古と
信身せど。とつりあ。はじめ。一者縁と
ひととぞ。あ。あ。あ。あ。と。と。と。と。
折妻ひき。と。上。伝法玉。守後。お家安
全と。よ。し。災難。と。そ。ん。と。ば。と。と。
ざ。天下泰平。よ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

勝き。な。あ。お。よ。平。流。乃。ち。り。人。筋。右。矣
傍。依。教。お。り。伊。豆。國。ひ。う。が。教。へ。か。づ。され。二。千
年。の。月。日。と。じ。あ。く。そ。う。り。き。い。ね。伊。豆
山。山。や。お。房。河。周。梨。と。急。ま。く。こ。き。お。や
リ。竹。寺。や。ん。と。じ。む。わ。さ。か。ざ。が。房。前
よ。依。殿。つ。う。年。久。を。流。の。身。た。り。と。之
だ。今。度。五。家。追。討。の。令。旨。と。う。じ。う。星
海。よ。張。場。の。さ。せ。よ。こ。た。ゆ。く。み。ど。ぐ。延。時

日と。うれしこど。義兵とあづかひ。御免
て。お誓有り。と。信れど。ち。先。傍急。ゆり。敵
私。と。のく。んたし。と。さ。れ。れ。と。お。れ。る。敵。
義。四年。八月。十七日。の。和。小。豫。時。故。と。く。み。
五。三。十。余。人。ね。乞。一。先。八。牧。が。た。り。ほ。と
と。を。相。友。と。隆。と。和。分。る。其。後。天。下。と
治。め。り。あ。私。控。現。の。ば。ア。モ。も。や。う
な。り。と。頼。朝。と。信。教。流。く。じ。ど。が。無。り。
平。早。振。伊。豆。の。山。の。び。つ。ぞ。き。八。百。多。代。え。
色。は。あ。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

は。前。に。書。と。事。て。が。や。ま。と。お。ひ。よ。と。今
と。手。く。り。て。る。か。そ。く。い。し。伊。豆。の。山
よ。娘。り。た。り。母。を。お。れ。ふ。文。治。又。年。七。月。十
九。日。秀。胤。と。貞。泰。倒。退。汝。と。て。總。倉。美
立。真。列。へ。殺。ゆ。後。又。泰。衡。を。討。元。一。降。恩
蟬。乃。私。と。七。ヶ。日。活。還。る。あり。道。也。と。廣。大
な。る。私。と。り。武。深。寺。中。よ。入。志。め。絶。い。し
ち。達。ち。の。つ。め。と。私。と。行。持。祖。修。房
中。と。家。南。寺。と。陸。奥。國。の。押。飯。役。該。守。府。院
軍。衣。衣。法。活。倒。胸。基。と。ち。水。寺。と。影。と。毛。六

聖德天皇の勅教寺。徳主よなのとく。一丈の認
自在寺の像もあひと。モ地一せじ寺の
猿守。伊豆の國。支陽山。猿守。と。らん寺。
う。やまと。はせ。武満。支陽山。猿守。
れ。の。とく。信。信。沙。も。と。泰。御。と。あ。せ。も
御。と。つ。鴻。御。基。御。も。御。三。代。の。遠。立
よ。む。く。の。傍。信。牢。義。の。義。も。を。く。が。御。の
佛。性。行。神。の。ほ。め。ふ。寺。食。あ。て。と。こ。あ。う
あ。え。永。代。北。ひ。の。え。あ。た。げ。も。う。じ。と。ば。教
書。と。す。り。下。さ。る。あ。る。わ。よ。び。寺。の。傍。十六

今。猿。守。よ。ま。ド。ヤ。と。云。ゆ。家。人。ね。多。礼。ア。ク。
今。主。乃。も。あ。板。十三。板。も。み。ち。名。の。せ。と。ゅ。
民。房。安。石。大。主。こ。よ。先。と。た。う。げ。き。ら。石。板。
三。系。時。と。め。し。と。せ。ん。さ。く。竹。べ。う。は。仰。付
ら。る。系。附。弱。る。底。よ。辛。仰。み。平。次。ケ。が。く。
う。ぐ。り。よ。き。竹。石。と。り。く。板。乃。面。よ。打
そ。だ。右。の。ひ。と。切。竹。と。り。く。板。乃。面。よ。打
付。荒。泡。の。う。づ。ん。と。散。じ。き。乃。面。竹。く。と。云
ふ。武。房。法。帰。傳。よ。ま。く。も。冰。寺。の。猿。守。立
漫。擅。観。乃。る。ふ。お。私。わ。り。が。手。と。大。な。祖。と

名何ばやうのうるよ。大さすくを本わす。
欲湯故樹の下よのびんぞ。走湯宿現よまよ
うしりと修むとよ。夢のふととらう
うか立つめり。至矣今よもとくや。月か國
よどてあら。檜廬乃は廢光の廬也。一び
一と。海の伊豆の老星とす。走湯笑
海の仏教もも難こと。かく信ど。ち
ざく。伊豆の古山乃走湯の神力もひ
と。わざぐれとく。逆流あざくともせむり。
走湯よあらしく入く。身のひまたのもす

卷之三

。船次^モ暫^モて草^{タケ}荔^{スル}物^{モノ}議^{メテ}事^キ
乃^ハの音^{ヨリ}あ^ハ危^ク下^カ野^シ。船次^モ暫^モと通^ス也^ト
は、是^モよりあり。ハ^シする川^シぞとく^シぞ。日^ヒもん
流^ミ川^シと云^フをすまく。様^ハぬ^シつまく。わ^カまら
よ。づめ^ハわ^カくと^シと^シと^シ野^シの^シうも^シ川^シあれ
て今^ハえひ^シぬき^シと^シと^シと^シと^シや^シと^シよ
ところよ。ちゆう^シか^ハと^シと^シと^シや^シと^シき様^ハ
あ^ハが^シ。又^ハ日^ヒよ^シえ^シる大^シ石^{イシ}。三^ミ川^シよ^シき
う^シの殺^シ生^シ石^{イシ}。今^ハえ^シば^シよ^シう^シと^シた^シ。

新舊教法も忽ちもつとそく下り
とすとつて居老を多く。もうかそうや板
書より穀生衣もあらう。ひるがや。而の
今からぞばれり。まうちりあひ乃と之を
け石夷。あらきの。お生まらざり。五城よ
て。のんぞ木子の。じのきとわくらまく
那。のく。ゆうとうあきらか。とだん
ト。船ね。そあら。御使。おのとく。取
玉神。とく。アランため。艳女と取く。とづき。年
きを。海鷗たり。せりふど。よ法令。とさる

ひとせりぬ。わがのや。とあり。うき
り。うよ。星。ひと。よ。玉。の。う。か。キ。よ。ふ。連
り。はよ。白。流。と。取。く。多。人。と。寶。と。見。と
く。ん。ため。意。や。と。追。り。く。封。禪。を。う。う
る。大。進。わ。げ。時。で。ド。ナ。レ。シ。の。白。流。是。を
か。あ。郊。と。あ。か。海。山。と。あ。え。て。げ。あ。す
む。わ。く。き。の。三。浦。ぬ。上。緑。外。げ。あ。外。勅。と
う。う。う。う。行。して。あ。ろ。も。く。ウ。年。二。年
い。く。又。溢。東。の。人。と。す。や。ま。と。そ。う。鹿。

多き事も甚だ。先よりと穀生石と名付
たり。もひ云翁和ある。ゆきと通り。猪
ノ町。ば石の向く。一句と云づけある。モ古
きよりよりと。野干えぬみ。ト極天
トもとぶやくとゆる。あを穿うく。板を
塗れ。大國トうり渡り。うるを。若天
草。よし。かねと云。八百草。ぐるを。と。因
て。今よきどくと。ゆせ。人のを。たぬ。介翁
さんと。せうと。そたぐひ。あくや。よし。ん。
はく。す。云翁。名を。翁穀。めぐら。汝。元東穀

生石。まうううう。さきへとおなまをじ。じ
二つよまれうわ。ひ取一とつで。かのこや
て。いやく。そのせり。もらひばくじ。穀生
石。とおとくじ。石もねづ。は。毛羽相
せ。あ。よ。一か。い。汝。え。ま。泥。れ。食。肉。魂。と。お。活
す。よ。ひ。く。と。石。も。と。も。と。と。と。と。と。
石。乃。や。ち。り。よ。う。か。と。か。と。と。と。と。と。と。
う。よ。失。わ。重。老。乃。け。と。う。と。と。も。う。也。
く。づ。う。れ。ひ。あ。と。む。の。ふ。と。あ。け。と。む。う。れ
。○。上。列。山。家。乃。人。強。性。な。る。ゆ。

ちやが迷惑せんと思ひうれたやとれ。う
しやりふ。又に。あくと。と。かぐる
といふ。それちよく。肝とく。板えきよの
は。懲惡。板えきよ。だり。高木
知じ。無礼。う。面白。な。ゆく。アタヒと
も。と。ありませ。無禮。朋友と。まよ。僕々。まば
う。かどり。う。よ。あ。ご。う。あ。と。つ。ま
き。まく。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
も。か。そ。う。さ。よ。ゆ。ね。ね。よ。お。遺恨。あ。あ。

まくひのれを崩^かく。とせんく。前山
寝^ねり。内^いれ。ちんじ。とく
けもゆう。あらま。櫛^{くし}。物^{もの}。し。とく
ひとひう。あらま。櫛^{くし}。とく。けくま
ひとひう。あれど。上^う列^は山^{さん}の百^{ひゃく}姓^{せい}
さくすよ。りふを望^むえ。えとて。安^{やす}め
絆^わをよの。ふとがん。ま安^{やす}め。ど。者^{ひと}の風^{かぜ}
を。今^{いま}の時代^{じだい}。す。学^{がく}ぶと。かくまう。す。
三^{さん}脣^{うるち}。百^{ひゃく}姓^{せい}。まき。の強^{つよ}み。こえ。
けうと。死^し罪^{ざい}。死^し罪^{ざい}。を。う。じ。わ
たすよ。わひげと。悔^{くや}ま。と。者^{ひと}。今^{いま}く。園^{えん}

東^{ひが}あくえ伝^き濃^{のう}上^う野^の山^{さん}園^{えん}と。津^つ浦^{うら}妻^{まご}
ら。ど奥^{おく}山^{さん}寝^ね。乃^お者^{ひと}。山^{さん}。ゆ。ゆ。住^す。一^{いつ}生^{じゆう}懲^{こころ}を
送^おり。と。な。つ。る。そ。ぐ。ろ。ご。と。ち。り。と。さ。き。だ
じ。ま。く。乞^う。ぐ。す。り。沙^さ。と。づ。す。る。あ。く。ば。苦^{くる}。う。り
り。の。傳^つ。下^さ。國^{くに}。乃^お玄^{くろ}幕^{まく}。か。く。す。て。難^{ひん}。じ。る
と。う。と。か。く。戯^あ。好^く。と。う。く。古^い。あ。よ。わ。ね。が。な。く。わ
れ。て。も。も。も。か。く。小。ま。の。む。せ。に。ゆ。け。り。吹^{ふき}。を。あ。で。
え。け。く。え。ま。し。と。ん。け。と。う。た。食^く。と。う。け
と。う。う。う。わ。わ。ま。た。る。所^{ところ}。を。あ。と。懷^い。

まことに達の字也。源氏より。こうとくも。
あめやも。ひととひとへ。山やまと。かくがく。ごとふ
とおどり。いゑんと云。とけりの神。しまに之
づきも。人鬼。かよかんを。うらやつまとも。
されと云ふ。とそとつ。祠をかく。ど。おれを
方多集。だれも。ひととく。今さつたす。ごまう
じ。わまとうへせり。とくあたまと。とくあり。
なれの好え。とくとく。あと云祠。又。
ふうそち。とくのたらも。元福。せり。纏乃た
り。まへ。体よわゆる。れぞ。見よまく。

六家物語成年考カタニ生焉賈二男

てのび。うみや。昔木曾義仲入洛の時。祠
こゆの中納。云。よあるのくわのごとくの医
東祖。あく。祀せり。根。木。房。角。くわ。祠。と。
難。じく。ひ。ぎ。す。や。根。木。房。角。くわ。祠。と。
月。中の。初。と。それ。知。ぬ。り。乃。多く。先。も
て。禁。中。云。象。の。初。と。知。ら。ど。し。亦。を。と。よ
く。ひ。猪。の。う。士。作。集。の。和。可。源。伏。伊。勢
地。信。双。絞。と。う。そ。く。や。ま。た。祠。と。知。く。神。ば
ま。ふ。又。よ。ま。金。ど。さ。ぞ。み。網。と。そ。ま。く。あ
と。す。ご。と。ろ。き。と。悔。あ。い。し。ゆ。前。女。居。よ。

魚母うおめがえどき。れにまよよ門もんよりよんとじる所
からきうごんじとよふ教きょうといふとゆゑんとま
さよまよのがりんともくる時とき。發はせあぐ。
今とまよきしゆあんあんとまきみやうよん
ともうすけすけれことせくこと。のあややあら
とあらこことよきれことと云いぐ。魚母うおめ。
車くるまとひきあひへうり。極きわえ乳記ねのき。の邊そへ
かくか舞まいととも。圓まんよへくの儀ぎととも。内うち
かくかづくととも。是まことに礼れいとく。一
實じつ。一ひととおとおうじと。勝かつたる者もの。

ひ。至方、戲云と云人即とて不眞因て爲
ナリ。孫人や。いづく處云とつりん前乃や。事と
を。至方乃者こそ初手を。第へハひがみ
秋葉と。勝主と。御也。大仏は付く。麻乃のひ傳
合を。あはれり。是處。すく。ひで。まろを。大仏の史
來を。ゆりて。支ぢん。そ乃も。彼神。久代凡神
級長のみ。ニ。ヤ。ア。ノ。ヒ。ト。ア。コ。シ。キ。ト。メ。テ。ば
與女。ゆ。す。と。考。や。ぐ。く。さ。り。ち。い。わ。も。よ
よ。の。く。ル。神。ア。ウ。ト。ア。コ。シ。キ。ト。メ。テ。ば
大仏。あ。乃。大風。よ。そ。ん。じ。う。そ。ト。ヌ。モ。エ。量

ト。多。多。多。人。と。ハ。神。今。神。即。と。ハ。方。ト。ほ
ま。ト。と。と。や。停。那。那。游。參。乃。神。免。風。神。和。別
那。田。の。那。神。も。ハ。神。嘗。是。法。一。神。と。て。大。仏
乞。ク。う。ひ。か。づ。め。書。雨。よ。だ。く。き。風。吹。ぎ
よ。う。う。き。の。神。の。免。ア。ミ。神。神。乃。妻。あ。神
唐。空。と。う。き。ご。ど。る。寶。霸。舅。麗。雷。電。雲。龍
皆。是。因。爲。の。假。者。た。る。が。家。て。時。よ。そ。ん。と
仰。よ。あ。こ。と。年。と。と。大。美。山。淨。仙。寺。久。仁。治。二
年。達。立。三。月。廿。七。日。棟。よ。乃。義。五。卷。よ。あ
風。高。ま。り。よ。吹。哉。那。宣。家。六。月。十。又。日。也。

後も昇乃弟もとつて風乃弟參と云ふ。星因系よとゆく先例か。とひた南風

あまうりふうてせ。五度。參尊の軍。濃よ濃を

星因系よとゆく先例か。とひた南風

風よ樹とわき。民臣一宇も強じじ。濃雨中

乃殿様梁巣もと毛散。山城の岩乃海。

金最明元。三月十五日。建長三年八月十日。大

風よ樹とわき。民臣一宇も強じじ。濃雨中

乃殿様梁巣もと毛散。山城の岩乃海。

金最明元。三月十五日。建長三年八月十日。大

仙翁換ド。えきうり。南風。國あり。されど。源氏
乃大御次。テ。へ神。セ。の。ひ。ク。ト。よ。山。乃。花。風。よ
教。乃。と。あ。ひ。風。索。と。あ。り。と。ご。風。吹。や。ま。
花。乃。よ。ひ。と。の。ひ。旅。乃。ひ。だ。り。日。と。波。ア。の。波
旅。と。り。す。日。三。月。と。己。す。り。夕。と。日。と。己。の。日。乃
人。之。め。く。を。恩。ゆ。く。旅。ト。終。て。り。あ。る。紀。風。邪
更。む。る。や。さ。く。ぞ。も。す。け。り。ね。又。和。列。布。面
乃。や。う。揚。列。廣。田。秋。免。乃。免。そ。お。り。ま
す。兩。と。移。る。に。ば。活。邪。よ。あ。く。あ。り。前。天。下。

ひそりみく草木枯れも無こそ千早
振ひぐまうちのやうれどものまゝ従云
きとよもれど忽焉ありたるてやげぬ
神向面といひゆ。古今多ナリと傳ふ。と
を雪く。内神と雨乃言。さうあつまは
風神。じこもうとろすゆ。あるとき文すらと
ど安危。金と。いごく佛妻と持ゆ。ざまと
ひそく。忍する様。今ひゆす。二今。萬能神也。
神七代。ひよ。ごひ。ごひ。ごひ。二今。萬能神也。
中後木ノ葉。男女あすぬと。御翁

伊勢天照大神乃活る。又男三女乃の神。是と人
王みとり。伊勢の二字とぞ。女もととくし
とくや。叔父仙翁三翁も。よ縁うるをよやうじ。
秋むる素めやもたら。もももとらうじと名
付。老のみのふとたんうじうといふ。わまう三
翁。妻みかねど。ば義皆。女總持
綾小丸えり。もと上御もん強。大三平粵
の申。女人ふくんで。だりふとくとく。仙法を
ほそへん。がよりよく。佛法の根源としこと

税まであり。天邊乃るに男女たゞもれど。僕
白骨を足の傍。赤肉毎乃程。赤血一滴
和て又神氣かとす。もと上後ありこと
三不孝乃乎てとし。心を本へれまありとす。
け翁予。が多智とあふぞり。戯謔とと思
たりき。先有利に者。じきくわねとあらじ。
因にそぞりね。

○陰奥ミチのくもんまの事

タク。今も。じつの圓脚とくぎ。毒
毒。出生の比類ひ。はとある。独れ毒

の機微。かとて友とせん。とくとて初音の
たが。がござりぬ。云葉とけ。私恩ひと
のよきと。と乃ば。くはきく。となぐさ
じゆ。たらぬとう。さもたり。れ。わ。奇乃
わ。うとくもと。圓脚とめぐらても。久能
明徳をかく。すびく。海道の墨。と
むす。す。と。希と。猿の歴と。けきく
とう。ぐ。さよだや。と。ぞ。お。り。あ

ぬ。常にくけ。わ。お。の。河。と。ぞ。く。
淡草あきな約よ。重じゅう。句。 神。る。ま。き。う。の。う。
牛うし。身み。を。え。ん。も。う。

御草寺 まうでして

卷四

結びの山なりとよけづるながまの水を分。
行乳山 さげぞれりゆる。あらそとよ。

ゆりこさん。まれとすととよ行乳山。轟よ日暮。

轟づく一木の山桟とふがめ。やどくつるとも

古河

轟づく。花ハ二まうもがつれ山のうづく。の
松戸 畫松とよく。ぐる日暮よ。

ねばねば。うづく。もとめられ。宿りがは。こぞれの夢

小山

田ヶ原とよく

かづまわる。きの民。くも財とえ。あく。あら。

小山田の原

室八鶴

いのまきび。室の八鶴よしとあ。波ねきは。

鶴くわん

里鶴

里の名あり

ちよめで。ちよかく。みる。雲霞。山の。鶴くわん

をくわん。緑ひだり。みずれの。鶴とありて。ひよまとある。鶴の名あり。

もくめの。ごりとく。れ鶴。そが。鶴とありて。ひよまとある。鶴の名あり。

う教宣 秋氣に相寄

思ひより。ちく堵とつちぞうのまえ。詔もまうぞよ。

も佑久山

まことつとも。おうちはあとの積まで。花暖山の。

芦船

あらね舟も舟とちるの舟船。ひととが女。

遊行柳

木屋の屋あがくよ。孫人あき。神の御移け。

梯川

なべの柳乃うげよさうりて。清流しとわ。

梯川

あとてえ匂いとのを梯川。かうひもく。

舞波山

もやもや。もみのぬよはくと山。それあね。

舞葉の河

みふの河。歲の梯乃舞叶も。秋の白波亭とそ

舞浦

りりや。りりもまくよめでく。霞の湯。

白坂

星うり奥羽山里あり。

あら巷。たのむすり。白坂や常よ雲ゆる。

勤農ある尼

白河園

ね、あれ。あれあり。寝乃。ああぞとま。白河の園

岩

さくらの岩と岩のあいだの岩もあひぢや思はん。
岩の隣

安積沼

あらわし。まの草むら。深きれど淺もの沼の名
あさりや

あさりや。深くはぬまども。深くえう。
山井

山井の。あさりや。神社あり。

千葉振神の社とありて厄れ。だらけす。

安達

思ひよや。あうちが魚あくあら。ちるくある。

二ヤ松

千年に。根うねり。二ヤの。私のうちひの。

二本柳

右の本柳よれて左の。木代やをん

あひよ。柳と松と。千年の。まよ。

信支

名めや。よの黒乃。今まき。あくつのか。

阿武隈川

あらわし。ちる根乃。まの浦初て。あくらぬ川の。

蘿子河 川と綴り

三二七

うもよがちるゝもや蘿子河。海きる人乃。

者國

くよこうひせ

嶺尾も鹿毛も鹿毛もすりてをとの國乃候す。

報河

えんとわんと

らあてのひ乃ひまゆのつそぎきて善う教ひ。

白石

しろいし

やもすう。岩石の松の風きて薔薇の衣と。

葛國

きどらのとよゑと

河をひとづひのがれぞ鷗の風か。この風がつまよ

やさうらむる

身人國

河中よ。めよ仰るる名あり。昔あと

きの津身みあざるあとよざかひて岩の身よ

岩波

さくや根さん

うとくへどもくじがゆしてつるまの今くぞ。

名波河

なみはなたがく

水底えわやううりうりみちのく乃。名波の河。

とくそわうとんまじ。名波共三河。がむね共三河。がむね共三河。

里人音と。是共三河。上方流罷せり。港ある。あり。行法師

行以て果たり。其處に。行法師

うちの下界の時。はるかと見て。おもせぬ。まふぞう

是をとく。うとうとて。松せり乃焉。秋見とぞやふすと。
古今集ノカタえうりとうつる
あづくのまゆる

やがちうれつ。ぞく力中に。稀花。枝葉とかくす。

おれぐる
文様
あづくのまゆる

稀花。山あらとよき。彦宿。うじくじくうり乃
文様の系

十行

稀花。まくとも十行乃浦風。ちかくやうす。

末松山

千をすごと。かくとくして。松山の波。あうと
文様の系

塙窓

松鴉

まくとも。やくも。の煙。よ。と浦。うり

彦宿。あくわ

言の。あ。も。と。よ。ざ。む。く。り。ね。源。や。と。ま。の。聲。

彦宿。ひ。め。う。の

野。を。か。山。と。鶴。く

み。ち。く。や。ふ。も。あ。う。で。彦宿。う。く。く。あ。て。え。

あ。じ。り。ま。と。う。く。く。撫。の。た。き。く。と。あ。ぐ。さ

え。浦。平。泉。よ。付。ぬ。し。よ。仏。閣。あり。童。光

院。と。号。と。が。き。ハ。何。経。の。支。六。あり。住。持

よ。あ。の。と。び。大。ぐ。ん。と。ぞ。雅。建。立。ぞ。と。向

を。佐保管とく。是ハ秀衡云因基あり。青野
ふ奥列へ爰向とく。秀衡は慈せめ因
が。九月廿八日あぬ平泉へ至り。寺
寺をもんじまつり。忽りて佛信人とも
よゆりあ。泰御せのせりゆくとつた寺院
ふとづくを。先例によせ。すみどる所也と。
御教書と。トテ。秀衡は。無事。院
乃傍一人助と号と。其御名。御前。因今
て。無事と。是泰御が。欲と。まづ。御名と
もしきり。和すと。あつ。御名と。あつ。

う。風姿あるよとせ。今日れどもとくと
いわんせよ。件乃傍附もとりく。
仰賛さうぜう乃る。議衡。りつて代々くえ
して公法の惠命。とほく。さんゆう九月三日。
卷。天皇。ひめ。御わまづ。あくびづの。る。
前。うきな。ざる。夜。まろ。ちよ。よ。よ
ひ。月。。の。り。わ。く。く。の。と。く。詠。ト
と。ん。ね。ば。す。う。よ。看。と。み。ぐ。ち。う。よ。し
ある。よ。わ。く。と。織。よ。た。く。懷。胸。乃。よ。わ。と

而之矣。ありとつよ。某時とて。づか。是とや
うびと。外ひと。士と。まこと。う月と。は感
あり。も身と。めんせられ。わまつま。業
とくらる。相ふ。和す。乃。と。か。明せ。もん
を。助ふ。殺賣。もと。うと。役人。りう
びせり。見よ。うり。びも。よ。と。お。時。の。茅
志と。とよ。も。と。や。ま。と。も。支。付。け。れ
れ。ふ。流。兼。の。ひ。ひ。錢。倉。へ。打。今。ひ。た。財。
板。余。五。三。魚。時。伝。よ。そ。も。じ。め。て。活。赤
よ。あ。と。が。れ。お。の。對。面。有。と。者。文。筆。」

携。と。と。つ。た。言。語。と。た。く。み。と。う。の。ち。も
り。り。賢。慮。と。ね。け。と。悔。感。ゆ。と。き。と。多
永。三。年。正。月。廿。日。に。が。藝。葉。は。色。よ。と。と。く。
太。曾。義。仲。と。討。捕。月。廿。七。日。未。刻。を。守。守
義。宣。甫。冠。者。也。教。九。而。判。官。義。經。傳。
次。而。忠。教。多。の。施。脚。錢。倉。よ。業。も。と。さ
ひ。わ。ち。ち。よ。合。教。と。と。び。仲。う。い。び。よ。じ
ん。う。と。殊。も。と。る。を。見。と。す。と。今。役。名
も。た。却。く。ざ。る。前。よ。多。時。施。脚。又。業。も。

也。是討元因人毛乃。まみの江文と。移事と
並處。乃乃役者。集上ととし。記録と
五年もとど。系時。う思ひ。むすて。神妙
や。かく思ひ。あて。かく。たゞ。どと。御感。再
三。と。よ。ぞ。に。よ。そ。か。ひ。絶。よ。ア。と。之。達久
六年。の。は。り。い。教。約。ハ。強。と。の。時。言。施
原。平。三。系。時。と。と。活。役。と。て。何。者。乃
私。よ。年。敵。せ。め。す。神。る。を。な。し。命。四
月。廿。七。日。系。時。私。ひ。よ。系。私。一。首。と
約。殿。乃。様。う。紀。と。と。と。と。我。者。乃。ひ。向。の。約

と引。け。ま。と。く。引。来。を。う。ち。よ。ア。わ。ら。り。せ。と
ぞ。ト。み。う。る。板。又。高。時。志。嫡。男。源。太。三。系。委。
名。す。と。う。そ。や。も。も。あ。り。教。約。不。行。列。見
も。も。む。お。ほ。ね。乃。時。セ。ざ。教。と。画。と。モ。日
乃。午。の。刻。ト。意。う。こ。影。り。う。と。あり。ぬ。と。る。
や。う。く。こ。が。き。笠。と。う。わ。と。大。ね。殿。系。委。
と。め。と。う。す。脚。乃。雨。は。と。と。う。ぬ。又
凡。も。の。あ。と。と。要。念。不。通。す。一。首。と。名。下
さ。ま。う。れ。ど。深。太。ゆ。て。め。あ。ど。き。れ。よ。そ。

立の神とやうされど。雄金殿湯殿乃あまり
よ。同井乃林蔭。又面余らやうの所とぞあり。
けむ。神えび可るやうでたり。行時は
晏風やまくを。づよく涼を。面同。星は
あう。ト。とぞん。やわら。君も薄よ陽し
うげよ。やえを。ひくとも。お時。春李
又。文氏乃御す。まとう。あらわ。和
す。乃。と。学び。やう。くも。うり。
亥時。建久十年十月廿日。死。忌
日と。あ寺。よど。今よ廻。と。猪。猪

ひ。れぞ。せね。徳。徳。徳。徳。徳。徳。徳。
つよく。か。い。せ。り。板。板。板。板。板。板。板。
治。又。年。七。月。十。七。日。徳。倅。と。お。立。同。廿。九。日。白
何。乃。國。よ。急。流。系。李。と。め。南。流。初。初。初。
能。周。法。仰。づ。右。風。づ。あ。ざ。る。や。の。ゆ。仰。と。け
き。そ。ぞ。や。づ。く。一。肩。縁。じ。板。又。乳。乳。ひ。み。縁。よ
と。と。て。寝。わ。ま。う。よ。眠。と。寝。人。あ。う。り。よ
え。寝。付。ふ。そ。ま。う。り。ま。山。を。食。う。ば。く。も。榜
と。海。り。ま。う。時。亥。時。が。次。男。平。次。亥。ま。一。肩。
け。う。ま。う。時。亥。時。が。次。男。平。次。亥。ま。一。肩。

アリ。ひあるをす。ねあれ一生懸のりす。と。前より別角。よれど。も角よゆき。と。助一と
りんわ。叔又。射鈴。そらのくと。靈乃神のす。
~~勅~~古今より見えたり。奥別へ。筋二十八方四
千余磅と。祀。まき。うり。そ中よどむ。寺
など。ふげり。人か。うるべ。あよ。ねる文
子三人。金。活四人。よ。波。や。ぐ。す。を。旅。じ。ま。代
き。名。と。め。ー。あ。内。と。歌。さ。よ。者。鷗。の。お
ゆ。く。や。え。と。う。人。が。と。あ。て。わ。づ。ま。り。と
う。行。り。件。乃。海。な。波。次。れ。よ。云。漸。後。河。乃

國より。う。れ。う。し。る。う。れ。よ。も。お。う。げ。り
石。と。も。く。づ。と。よ。く。同。よ。た。う。あ。あ。る。塙。わ
マ。今。よ。あ。き。で。ね。が。は。そ。と。な。ん。こ。う。だ
の。う。だ。く。の。お。と。ゆ。よ。り。と。か。ゆ。る。と。基。
中。納。言。の。く。ち。う。け。ま。う。ク。ん。辛。く。よ。ま。の
お。す。か。ひ。く。と。く。と。待。う。か。から。と。く。星。も。古
き。隊。と。あ。り。あ。と。名。だ。す。と。う。と。あ。ら。ド
と。と。多。年。古。傳。ゲ。ね。よ。あ。く。狩。心。わ。る。曉
人。ハ。家。う。後。像。と。や。か。と。も。し。ん。波。ね。あ。ふ。お
軍。三。代。よ。う。ス。威。勇。三。畧。乃。名。と。え。く。り。い。う

なまやうありしん。もうまどもとくして。
たちまちよあとやうがとくよはけ
きとびとまどもひじとやうひしん。勢の
ふくせのがりたる程は。後ほの國。さう
とつ下そ。うこまよらりとやへうを。さう
変ふくわらくると。わらまよるあるをくみ。
後ほの法皇。このあくもじとゆひてね。と
とくぬくとく。うきもうすまくゆゆとめ。
り勝行のたとくよがすまくせけるよ。よ
や君。君の五のゆうとて。そがさんのもと。

ゆよしせんとよめりしんと。うける
りふる。うてまくのゆのゆくゆ。よ
とよもじか。うわうりとからくよくと
衰よえゆと書きく衰よえ。むよう
きくむけのたのび。えくとくめに
とくあり。うりうりうりうり。おとくめに
るのむよがりとつむ根。根。うなとく
けりいとらむと。おゆくも。もくとく
残す。余時。えみ草。うげよと。さう
うううびあうんと。およがひせんのむ。

あきらめ候候のひあそび。やうの事などを
りゆく。よどまらず。わたくしがとまわま
まじ。そぞろこと記。一例。もとて書を
とく。うらじ。うらす。ち繁をつづり。
和解をあくと事く。却てあざけり。あ
あざく。ほんじ。様ある。友。よ
用よか。耳よき。徳のみあり。件の
凡てのうちふとやな。朋友。げふと案。だ
し。様のつき。をあく。じ。ち繁をとる。
ところ。人のため。よあざぎをだせ

○ 鹿川の牛鳴（見）事

かく。今あきらめへり。うりを
の初（キ）つ。川とえを立。ぬ。付。うり。家。よ池中
よ鴻。あり。ばくさぬ。じ。ぬ。よ付。く。い。れ。の。な
き。かく。わく。と。思。ひ。黒。の。翁。よ。翁。く。れ
も。翁。言。く。是。半。鴻。と。名。肩。ばく。黒。よ
ひ。翁。し。と。云。ばく。に。ん。あ。わ。し。翁。と。人。ち。と
ふ。じ。翁。と。も。と。ま。よ。の。よ。き。だ。う。り。と。せ
し。ひ。よ。よ。時。く。う。き。牛。一。セ。も。あ。ま。て。夜。と
も。よ。う。う。純。か。清。つ。く。く。や。ま。で。い

まごとふづくちうど。ひ牛、主ありして牛
麻累をとか。ほ不きことさざれぞ。晝寝慢と
このじ傍（き）が牛よめうり。達（の）馬（の）うつうみ。
牛よて田畠（たけい）とすと。又之傍（き）とまねもろ
牛（うし）二疋（にせき）おべーと教（おはな）かぬ。傍（の）一人（ひと）
而主人選（えん）候（まわ）。ちといひてます。あひきんもととくらぐ。が
僧者即（そく）來（くわ）。そつと抜（ぬ）おもべ。金毛房（こんぼうぼう）也。近（ちか）きどた。づぐ。び
金毛房（こんぼうぼう）也。近（ちか）きどた。づぐ。び。又
翼（つばさ）真（まこと）偏（へん）正（まこと）。め。とくひ。時（とき）晝寝（ひねい）。されど。牛よみ
らじど。わひ多（た）ん。ひ傍（の）。牛よめうり。今やと
内（うち）がひるひりて牛よめうり。見ハシニコメ
くめうり。きどと。泡（あわ）とあり。げ泡（あわ）よニセの
牛と。もうちと。さくらゆ。百二十年。以
前。乃。今。モニツカ。牛。ひ傍（の）よ時（とき）も

そと行（ゆ）ぬ處（ところ）。肥（ひ）る牛一つ。もあれく
處（ところ）とけまり。傍（の）。牛とくさんな
もれ牛。あくまで。もや。いま。牛糞（うしのこ）とか
さす。下總（しもふさ）國（くに）。もうちの野（の）原（はら）。もあれ
是（そ）六聖（ろくそう）牛（うし）。やまくらんと。下總（しもふさ）國（くに）。
處（ところ）のねり。つたゞと。それ。縫（ぬ）房（ぶさ）

あらわゆるとがる。お老支そばみまうゆ
もさうべ。古語よづく。もくうとうりく。
アリマトとあざく。あやしとやみのまを
ウアリシ。牛はありたるもな理。さて
又連とうげて。モ連とあるがよど。ぬき廉
の草。と。そんざいふ併へりとあまを。じ妨
主。牛は成つてもことり。之を源歎の
者。乃はとまつて。牛也。ぐく乃どくの
人をよむ。と。意存もやく。めり。假
欲りして。がどみともゆすく。仏法とある

ざる是人。忙人と仮に説きて。傍處家が説
ふ。古の体義。爲び乃身。補農。牛首
也と云傳く。秋は不日。あまた。ハああ。クミ
ぞ。熟秋人へとつ。今乃令。秋ハ人令も。ふ
り。ごねの如きも。人面熟人とつて。陰奥
つゝ川乃傍俗。ハ秋ハ共よ畜生。とく。牛乃
後と。きつて人也。さよき。と。牛乃
夷。とつて。者。すまう。びようと。て。晝
寝。と。ひじ。見にうち。いと。と。牛乃
よたと。文人のあざくり。と。夷。韓非子

よ。宋人田とたゞと者あり。田の中より株あ
リ。も。も。も。もあり。株よりまことにうびとおで
犯と。よろそ。もしもことと接て。くひぜども。
又。葱とえんことと称す。鬼ふ。鬼ふ。鬼ふ。す
よ。と。お。宋ふ。のため。よ。笑ふ。と。うり。をき
り。んで。うの。い。よ。是。本。れ。り。今。の。を。う。
~~絶~~。ぬ。塘。欲。よ。ま。ざ。ひ。い。る。も。す。よ。遊。う。
板。又。智。の。う。し。き。け。ど。づ。く。ね。は。あ。う。と。
ア。古。く。云。氣。わ。り。妄。智。の。傍。る。里。の。名
よ。負。く。げ。く。げ。く。げ。く。あ。つ。き。牛。と。歎。う。も。を。の

不恩儀也。爰より。れ。件。乃。云。累。と。う。り。也。
き。ふ。○。智。ハ。う。と。く。欲。よ。ま。ざ。ひ。く。ぞ
く。が。け。く。ぐ。ぐ。あ。り。く。名。よ。や。や。う。と。は。と
さ。く。わ。一。ん。の。主。而。每。よ。往。奇。と。ほ。う。称
ゆ。く。事。奇。と。接。乃。友。と。と。称。す。が。か。史

以。經。物。譜。之。下。終。

卷之三

鹿鳴集

鹿鳴集

中正
朱一

110X
157
3